

## 令和5年度第1回古賀市総合政策検証会議 議事要旨

### 【開催概要】

開催日時：令和5年8月28日(月)19:00～21:00

開催場所：古賀市役所501～503会議室

出席者：

(委員) 南委員長、豊貞副委員長、大庭委員、橘委員、鶴委員、伴委員、藤井委員、宮原委員、吉岡委員、清水委員、三戸委員

(事務局) 野村副市長、総務部長、市民部長、保健福祉部長、建設産業部長、教育部長、経営戦略課長、デジタル推進課長、環境課長、人権センター課長、健康介護課長、子育て支援課長、商工政策課長、古賀駅周辺開発推進課長、学校教育課長、生涯学習推進課長、経営戦略係長、経営戦略係員

### 【議事・要旨】

1. 委員長あいさつ	
2. 委員紹介	事務局：資料1に基づき説明
3. 審議事項	<p>(1) 令和4年度主要な事業の実績に関する検証</p> <p>事務局：資料2、資料2-1に基づき説明</p> <p>&lt;委員からの質問事項&gt;</p> <p><b>【妊娠・出産・乳幼児期支援事業】</b></p> <p>・こがたからばこの中身と中身の選定の経緯は。</p> <p>→ (回答)</p> <p>合計で10,000円相当の中身となっている。市内にあるコスモス広場で使える3,000円分の商品券と紙おむつ、おしりふき、スタイなど新生児に必要であると思われるものが入っている。</p> <p>選定は子育て支援課で行っている。</p> <p><b>【学力・体力向上推進事業】</b></p> <p>(質問)</p> <p>政策の目的にある「生き抜く力」を育むためには社会的な課題解決能力が必要になると思うが、学校の授業の中で例えば小中学生に対し古賀市の身近な社会課題を市職員や教師が説明し、グループワーク等で議論してアイデアを提案するような授業や取組は行われているか。</p> <p>→ (回答)</p> <p>小学校で基本構想の子ども版作成に取り組んでいる。市職員に小学生が質問をし、回答をもらいながらWEBブックの作成に取り組んでいる。今年度作成し、来年度作成したものをを用いて授業をしていく予定で進めている。</p> <p>(質問)</p> <p>部活動の地域移行はかなり大きな課題に思うが、実際にどのようにしているか。令</p>

和5年度立ち上げを予定している地域移行検討委員会の進捗は。

→ (回答)

現在、地域部活動指導員を顧問の代わりになる方として3中学校に1人ずつ枠を設けて募集中。地域クラブの立ち上げ等は敷居が高く、スポーツ協会や文化協会と協議しているが、進んでいない状況。

今年度から地域移行検討委員会を立ち上げた。今後2年間をかけて地域移行をどう進めていくかの計画を立てる予定。現在、委員会を構成する学識経験者等を選定し、10月頃に第1回を開催し、今年度は3回程度行う予定。次年度も実施し、最終的には答申という形でいただく予定。

(質問)

今年度3回の会議で目途がつくと考えているということでしょうか。

→ (回答)

前段として、令和3、4年度に文化協会や中学校長、教育部関係課長等と2年間かけて懇談会をし、情報交換を行う中で調整が必要という具体的な状況が把握できた。

今年度から2中学校で地域活動指導員が顧問として活動している。その他国の方針は、まずは中立の活動として移行していこうというものであり、古賀市では令和5、6年度で地域移行の検討会で行い、計画を策定していくことを考えている。その経過の中で、移行できるものはしていきたいと考えているが、社会人の方が子どもたちが部活動する時間に来ることができるかなど、様々な課題がある。それらを含め令和7年度以降に何らかの形を示せればと思っている。

(コメント)

市長が積極的に学校を訪問されている。成果指標の「将来の夢や目標を持つ」ことにすごく良い影響を与えていると思う。そういったこともPRや資料に書き込んでもらえればと思う。

→ (回答)

今年度から以前行っていた市長と教育長が各学校を回り一緒に給食を食べるランチミーティングを再開している。その中で市長と教育長が児童生徒と会話をしながら生き抜く力の糧になったり、市役所や教育委員会のことについて答えている。今回の資料の中でどの事業にも当てはまらなかったのが紹介できなかったが、今後紹介できる機会があれば紹介していきたい。

(質問)

インターネット環境整備補助金の見直し方針の記載について、提出書類や補助対象経費の見直しが必要と記載あるが、具体的にいつ頃から改善できそうか見直しは立っているか。

→ (回答)

本補助金は令和4年度から始めたが、手続きが複雑であったという反省を踏まえ、今年度既に手続きを簡易にし、速やかに補助ができるように改善している。

(質問)

インターネット環境整備補助金について各家庭への周知は何を通して行っているか。

→ (回答)

学校から児童生徒を通じ通知している。

**【社会教育関連施設管理事業】**

(質問)

リーパスプラザこがホール稼働率があまり高くないことが実績から見られる。成果・課題・見直し方針に「自主事業（自主公演）の誘致に向けた取組を始めます」と記載あるが、営利事業を本格的に開始するという意味か。

→ (回答)

現在リーパスプラザこがは、社会教育法により営利、政治、宗教活動が禁止されている。稼働率を上げるため市民ホール化として社会教育法によらない形で、営利活動ができる形に切り替えて、古賀市でサービスとして成り立つのかをサウンディング調査の中で検討している。研究を進め、実施が可能と判断できれば移行していきたいと考えている。

(質問)

生涯学習センター管理事業の成果・課題・具体的な改善内容に「リーパスプラザこがを活用していない年齢層や社会階層の利用促進に向けた手法を開発します。」と記載あるが、活用していない年齢層とは。

子ども食堂の研究をしており、福岡県内の自治体すべてを調べている。こういった公民館等を積極的に貸し出している市もあれば、そうでないところもある。子ども食堂は借りることのできる場所がなかなかなく、やりたいけれど場所がないという問題を抱えている。リーパスプラザこがを活用していない年齢層が、もし、比較的若い方であるならば、そういった活動への貸し出しも視野に入れてはどうか。

→ (回答)

活用していない年齢層とは日ごろ働いている 30、40 代が多い。

子ども食堂での利用については、今後リーパスプラザこがの稼働率を上げていくためには一つの重要な視点と思われるので今後考えていきたい。

(質問)

生涯学習センター管理事業の成果・課題・具体的な改善内容で今後第 2 回のサウンディング調査を行うとのことだが、第 1 回の調査でどういった結果が得られたのか。

→ (回答)

第 1 回は令和 4 年 6 月頃、第 2 回を令和 5 年 8 月に行った。

第 1 回について、リーパスプラザこがは中央公民館、交流館、図書館、歴史資料館

という広いエリアなため、まずは施設の概要を知ってもらい、ここはどうなって欲しいなど漠然とした意見をいただいた。その意見を事業者が持ち帰り、研究して第2回でより具体的な内容として提案を行った。

今後基本計画を策定していく中で事業として成り立つのか、しっかりと検証していきたい。

(質問)

第1回、第2回でどれくらいの数の意見が寄せられたのか。

→ (回答)

第1回：参加事業者：24 事業者

第2回：参加事業者：20 数事業者

(質問)

提案をいただくというより参加いただき意見交換を行ったという認識で良いか。

→ (回答)

良い。

#### 【男女共同参画推進事業】

(質問)

古賀市で具体的に男女共同参画を推進している企業を優遇するような政策はあるか。例えば、国の省庁などでは、えるぼし認定などを取得している企業を入札において優遇する制度がある。

→ (回答)

古賀市において優遇制度はない。

6月の男女共同参画週間に年に1回男女共同参画フォーラムを開催している。その中で男女共同参画を意識して取り組んでいる事業者に市長から表彰状を贈っている。

(情報提供)

経済産業省が昨年、人権デューデリジェンスのガイドラインを出している。今後入札の際に取り入れていることを条件に使用する動きも見られる。様々な事情はあると思うが、情報提供させていただく。

(質問)

資料 2-1 の回答で「働く場においては、長時間勤務など男性中心の働き方を前提とする労働慣行が残っている」とある。子どものいる家庭だと女性が育休を取り、その分男性がフルタイムで働くということになると思うが、そういった前提が残っていること自体が問題であり、労働環境の是正として男性の育児休暇取得を推進している企業を優遇するなど、男性が前に出なければいけない労働環境から変えていく

取組が必要かと思う。そういったビジョンはあるか。

→ (回答)

家事や育児、介護を女性が担う事実がある。男性の育児休業について古賀市は力を入れており、男性職員が取得しやすい状況も増えてきているので、企業の方に情報発信していきたい。

(情報提供)

指定管理に入る業者に労働条件審査を受けてもらっている自治体もある。古賀市は価格や内容で決定しており、過重労働がないかなど労働環境が整っている事業者をお願いするという前提がない。労働条件審査を今後取り入れて欲しい。

(提案)

福岡は元気な女性多い。【学力・体力向上推進事業】のキャリア教育推進事業の中で、様々な職業人を各中学校へ招き、生徒とともに職業について考えていると話があったが、こういった場に今頑張っている女性の職員を積極的に登用し、中学生のうちに男女共同参画の考えを勉強してもらいたい。

(質問)

男女共同参画推進事業としての一部の啓発や講座は配信等行っていたか。

→ (回答)

オンライン配信等は行っていなかった。

(質問)

啓発講座の主な対象は。

→ (回答)

年間通じて様々な啓発を行っているが、どうしても高齢者が多い。

今年度から市主催のセミナーのほかに、区長会や企業に出向く出前講座も開始予定。

(提案)

資料に掲載されている写真を見ると、たまたまかもしれないが、シニア世代の参加が多いように見受けられる。市民意識調査や市民事業者意識調査への反映を考えると事業者への講座やオンラインの動画配信がつながっていくと思う。必ずしも成果指標に設定している事業への参加者数が重要ではなく、どれだけ男女共同参画への理解が進んでいくかが大事である。それを踏まえた講座の取組方を検討して欲しい。

(提案)

成果・課題・見直し方針にある「固定的性別役割分担意識」の是正となると、高齢

者が対象になってしまう。最新のジェンダーギャップ指数も日本は今までで最低の順位になっており、現役世代の女性のキャリアに関する考え方などを変えていく取組が必要。

(質問)

現在の成果指標では男女共同参画の推進がしっかりできているか分からない。指標の見直しは検討できるか。

→ (回答)

資料2では基本事業の成果指標を掲載しており、施策1-4-3「ジェンダー平等の実現と男女共同参画の推進」では「男は仕事、女は家庭」という考え方(固定的性別役割分担意識)に賛成しない人の割合」を課題指標として設定している。課題状況を把握しアクションプランをローリングしていくという形を取っていることから指標の変更は可能としている。

持ち帰って今後検討したい。

#### 【保健事業と介護予防の一体的実施事業】

(質問)

施策の目標に「高齢者の就業やサポーター活動への参加など、多くの人が社会の支え手となっている状態」とあるが、事業の内容を見ると、高齢者の就業支援や高齢者の社会参画を増やしていく機会があるか分からない。そういった内容の事業はあるか。

→ (回答)

健康づくり推進委員や食生活改善推進委員が介護予防のサポーターということで多くの方に参加いただき、その中で社会参画をしてもらっている。

(質問)

高齢者の就業支援は特にやっていないのか。

→ (回答)

サポーターの育成を通して行っており、シルバー人材センターとも協力して行っている。

(提案)

後期高齢者の健康診査受診率が県の平均より少ない。健診を受けてない方の理由を聞くと、時間がない、病院を受診しているから健診を受けなくてよいという方が多い。後期高齢者なので恐らく病院を受診しているからという方が多いと思うが、例えば内科だけでは分からない病気もあるため、病院を受診している方もこの事業は対象だと市内の病院と協力して周知して欲しい。

今後85歳以上の人口が急増する予定。2025年から2050年で1.4倍以上と推計がある。高齢者が増えると大腿骨骨折が増える傾向にある。これを防ぐためには骨粗鬆

症検診を受診し治療していくのが必要になる。古賀市でも骨粗鬆症検診行っている  
ので受診率が上がるよう広報していただきたい。

→ (回答)

後期高齢者の健診の受診率は上昇しているが、まだまだ低い状況。健診の必要性に  
ついてあらゆる場を用いて伝え、受診率を上げていきたい。

#### 【商工業活性化推進事業】

(質問)

古賀駅西口エリアマネジメント支援事業の成果・課題・具体的な改善内容に記載し  
ている「ブランドイメージ」とはどのようなイメージを想定しているのか。

→ (回答)

様々な人がチャレンジできるエリアとしてイメージしている。商売に限らず、様々  
な事業をされたい方が西口では「できる」、「可能性がある」と実現してもらおうことが  
ブランドイメージと考えている。

(質問)

古賀駅西口エリアマネジメント支援事業の成果・課題・具体的な改善内容に記載し  
ている「まちの企画室」は何をしているところか。前を通るといつも暗いが、営業時  
間は何時か。

→ (回答)

まちづくり団体「株式会社ヨンダブルディー」が行っている西口エリアの活性化に  
向けた作戦会議をする場として使用しており、「株式会社ヨンダブルディー」がリノ  
ベーションし、運営している。

「まちの企画室」に人がいない光景も目にしているが、西口エリアで活動していな  
いということではなく、「まちの企画室」に運営が居ない場合は、まちの食交場「る  
るる」の運営に携わっているなど、常に西口エリアの取組を展開している。

(質問)

「まちの企画室」は一般開放されているというより、予約制の認識でよいか。

→ (回答)

「まちの企画室」や「kogaballroom」を使う際は予約制。「kogaballroom」は毎週  
木曜日に無料開放し多くの人に利用していただく仕掛けをしている。

(質問)

古賀駅西口エリアマネジメント支援事業は様々な企業全てがターゲットととらえ  
ているが、ターゲットがぼやけるのではないか。実際に誘致していたり、補助金を出  
したりといった具体的な取組はあるか。

→ (回答)

どなたでもお越しく下さいという間口を広げた姿勢は大事だと思っている。「食」

は市として取り組んでいきたい一つのキーワードであるが、西口エリアの活性化事業を実施してきたなかで、起業したい方に対し、こういった業種はダメですではなく、市としても可能性を聞かせてもらい、実現に向けた支援をしていく姿勢で本事業は向き合っている。どうぞチャレンジしてくださいとの思いで取り組んでいる。

(質問)

予想していなかった企業からの問い合わせなどはあるか。

→ (回答)

本事業を進める中で古賀竟成館高等学校の生徒とイベントなどで関係を持たせてもらっている。その古賀竟成館高等学校の卒業生の方が、西口エリアで起業したいとの話があり、ぜひ実現できるような支援をしていきたいと考えている。

(質問)

古賀駅西口エリアマネジメント支援事業の成果・課題・具体的な改善内容に「JR古賀駅西口エリア活性化ビジョン」を作成し、そのビジョンを継続的に実行するための体制として「株式会社ヨンダブルディー」が設立されました。」とあるが、「株式会社ヨンダブルディー」は古賀市からの委託を受けているわけではなく、独自で色々な活動をされる体制との認識でよいか。

→ (回答)

令和2年11月から開始した「JR古賀駅西口エリアの活性化に向けたエリアマネジメント支援業務委託」において委託事業者の株式会社ホーホウに対し、業務委託終了後も継続的に取組ができる組織をつくることを契約事項に盛り込んだことで「株式会社ヨンダブルディー」は設立された。令和5年度からは「株式会社ヨンダブルディー」と地元の方、商工会、関係者の方々とともに「JR古賀駅西口エリア活性化ビジョン」に示したビジョンを検討し、実行していく形で進めている。

(質問)

成果・課題・見直し方針において「ふるさと応援寄附においては、前年度より申し込みが増えた」とあるが、具体的な数字は。またどのくらいの事業者が取り組んでいるか。

「小規模事業者における効果が小さかったため、今後はそれらの事業者からの返礼品の出品、申し込みの増加について検討していきます。」とあるが、具体的な検討策があれば教えてほしい。

→ (回答)

寄附件数 令和3年度：20,244件 令和4年度：54,719件

寄附金額 令和3年度：425,141,928円 令和4年度：906,538,752円

事業者としては特に食品製造業者が強い傾向にある。非食品製造事業者も良い返礼品を提供してくれている。

取組として年3回返礼品提供事業者とミーティングを実施している。事業者による返礼品の増量(従来1kgのものを1.2kgにする)など努力や、昨年からの新商品と



して複数の事業者でコラボしたおせちの返礼品が人気であり、行政として新商品の開発やお得感の演出を強く意識し、寄附額の増、古賀市の魅力発信に努めていきたい。

(提案)

ふるさと応援寄附事業の成果・課題・具体的な改善内容に「企業の売り上げ増加に寄与します。」とあるが、総務省の制度設計上、副次的な効果ではあるが、本来の目的ではないのではないかと思う。担当課として商工業の振興に対し、強い意識を持つことは好意的にとらえられるが、市として資料の書き方には注意した方が良いと思う。

#### 【古賀駅周辺整備事業】

(質問)

内容に記載のある「アイレベル」とはどういった意味合いか。

→ (回答)

国土交通省が提唱している1階部分が開かれた空間のこと。例えば、今回の東口の整備では公園を造ることとしているが、公園に面した1階部分はカフェなどのスペース、2階以上になると居住スペースでと考えている。

(質問)

古賀駅西口に新しい商店ができるなどいい感じだと思っている。市役所などは東口にあり、東口利用者の方が多いと思う。東口と西口の行き来がしづらい。今後整備していく予定はあるか。

→ (回答)

東口は都市計画決定された駅前広場があるが、これで良いのかと検討を進めており、動線がこのままで良いか、エレベーターが良いか、エスカレーターが良いか、降り口も線路と並行ではなく、公園の方などに考えている。西口についても、今の駅前広場は暫定的に整備された状況であり、昨年度都市計画決定された駅前広場を中心に、動線や降り口の検討を進めたい。

#### 【公共交通維持・確保事業】

(質問)

のるーと古賀の実績は多いようには見えない。利用エリアは駅周辺に絞られているように見受けられた。古賀駅から遠いエリアのニーズはどうか。

→ (回答)

のるーと古賀は古賀駅周辺の約10,000人住んでいるエリアで運行している。運行から半年ほどを経過して、1日の乗車人数が20名に達している。目標値としては1日40名を設定している。このエリアを選定した理由としては高齢化率が高い、坂が

多いエリアということで地域に入り、協議している。山手の行政区の方からのニーズは少なく、もし導入すると移動距離が長くなるため待ち時間が長くなり、遠いエリアに導入するのは厳しいと考えている。

(提案)

2024年に運送会社に大きな問題が発生する。将来的に人を運ぶだけでなく、物を運ぶ方法も検討してもらいたい。山手側の産業も含め、物を運ぶことで収益化できると思う。通販も大事なインフラになっている。物を運ぶことに視点を向けた取組もお願いしたい。

→ (回答)

ドローンで小さな荷物を運ぶことは検討を始めているが、大きな車両で輸送することは研究をさせてもらいたい。

(提案)

成果・課題・見直し方針に「自家用車以外の手段で移動する必要がある人の移動手段を確保」と記載あるが、地球温暖化などの視点でいうと自家用車から公共交通に乗り換え、環境負荷を低減することが大事。今公共交通を利用していない人が利用するような書き方にした方が良いと思う。

→ (回答)

伝えやすい文言で整理させてもらいたい。

#### 【循環型社会形成推進事業】

(質問)

古賀市のごみのリサイクル率は。

→ (回答)

令和4年度の実績は16.6%。ごみ処理基本計画の目標値は令和5年度で17.5%を設定している。

(質問)

リサイクル率は全国平均と比べるとどうか。

→ (回答)

全国平均は20%近くであり、古賀市は低いと認識している。

(情報提供)

鹿児島県大崎町はリサイクル率が83.1%である。リサイクルを徹底することに舵を切ったことで結果として、SDGsの企業合宿などでまちが活性化しているという話を聞いた。参考にしてもらえれば。

→ (回答)

リサイクル施設の保有やリサイクル率には各自治体差があり参考にさせてもらっ

ている。リサイクルを徹底するというを今後とも進めていきたい。

(質問)

入札の基準などで環境に配慮した企業を優遇するような取組はあるか。

→ (回答)

古賀市ではそのような取組はない。今後研究していきたい。

(質問)

本事業におけるリフューズに関する取組は何か。

→ (回答)

古賀市は 4R の取組を進めており、例えばレジ袋を断る、買う前に本当に必要か考えるといったことをホームページや市民講座で啓発を行っている。

#### 【デジタル化推進事業】

(質問)

生成 AI の活用は検討しているか。

→ (回答)

すでに検討しており、各課のインターネットが使えるパソコンにアカウントを作成し、色々な業務で使えるようにしている。

各部に 2 名いる DX マネージャーに対し、アイデア出し、議会答弁、文書の要約、日本語文章の外国語訳などで使えることを示し、各部、各課で研究してもらっている。

(質問)

成果指標の「デジタル技術を学ぶ機会における満足度」の対象は市の職員が対象か。

→ (回答)

令和 3 年度はスマホ教室に参加した市民の満足度、令和 4 年度はスマホおたすけ窓口に参加した市民の満足度を掲載している。

デジタル推進課の業務は市職員の業務効率化と市民の利便性向上があることから、成果指標は市の業務に関する指標、市民の満足度に関する指標というベクトルを変えた指標を設定している。

(質問)

成果指標の「デジタル技術を学ぶ機会における満足度」における令和 3 年度、令和 4 年度それぞれの参加者数は。

→ (回答)

令和 3 年度のスマホ教室はドコモのショップで開催時の人数は把握していない。市のリーパズプラザこがで実施したものは 80 人程度が受講された。令和 4 年度のス

	<p>マホおたすけ窓口は 307 人が利用された。</p> <p><b>【その他】</b>  (質問)  今後この会議はリアルで続けるか、オンライン化していくものか。  → (回答)  延期前の日程 (7 月 10 日) では、対面での出席が難しい委員においてはオンラインで出席いただく予定であった。今後の開催方法については委員の皆さまの意見を参考にしながら検討していきたい。</p>
4. その他	事務局：次回の審議会の日程調整の案内
5. 副市長あいさつ	